

2024年3月期 連結決算の概要



株式会社有沢製作所

2024年5月9日

目次

- 2024年3月期 連結決算
- 2025年3月期 業績予想
- 参考資料



	'23/3期 実績	'24/3期 2/8予想	(百万円) '24/3期 実績	前期比	2/8 予想比
売上高	42,722	42,600	42,114	-1.4%	-1.1%
営業利益	2,228	1,250	1,483	-33.4%	18.6%
営業利益率	5.2%	2.9%	3.5%		
経常利益	2,717	1,250	1,488	-45.2%	19.0%
純利益	2,856	1,350	1,639	-42.6%	21.4%
一株利益 (円)	86.46	40.77*	49.51	-42.7%	21.4%
配当金 (円)	90.00	合計45.00	合計 60.00	--	--
為替レート (円/\$) 平均	131.62	140.67	140.67	--	--
期末	133.53	142.00	151.41		

* 12月31日現在の発行済株式数で試算

前期比

- ・ 連結売上高は、産業用構造材料が増加したが、電子材料・ディスプレイ材料が減少し、6億8百万円（前期比1.4%）の減収。
- ・ 営業利益は、売上高の減少および需要減少に伴う生産高の減少により同33.4%の減益。
- ・ 経常利益は、前期に比べ為替差益が減少し、同45.2%の減益。
- ・ 当期純利益は、前期に比べ有価証券売却益が減少し、同42.6%の減益。

2/8予想比

- ・ 売上高は、すべてのセグメントで減少し、4億86百万円（予想比1.1%）減少。
- ・ 営業利益は製品ミックスの良化により同18.6%増加。
- ・ 経常利益は為替がほぼ想定通りであったことにより同19.0%増加。当期純利益も同21.4%増加。

■ 貸借対照表



(百万円)

	‘23/3期	‘24/3期	増減	
(資産の部)				
流動資産	47,420	47,097	-323	売掛債権 +3,333 現金預金 -2,383
有形固定資産、無形固定資産	16,690	18,345	+1,655	設備投資による
投資有価証券	2,545	2,327	-218	政策保有株式売却による
その他の資産	1,004	1,047	+43	
資産合計	67,659	68,816	+1,157	
(負債の部)				
流動負債	16,277	19,423	+3,146	買掛債務 +1,801 短期借入金 +1,522
固定負債	4,275	3,147	-1,128	長期借入金 -757
負債合計	20,552	22,570	+2,018	
株主資本	44,826	42,867	-1,959	利益剰余金 -2,040
その他包括利益合計、新株予約権	2,281	3,379	+1,098	為替換算調整勘定 +967
負債純資産合計	67,659	68,816	+1,157	

2024年3月期 通期の前期比増減分析



	売上高（百万円）			セグメント利益（百万円）		
	'23/3期 実績	'24/3期 実績	増減	'23/3期 実績	'24/3期 実績	増減
電子材料	26,544	25,105	-1,439	1,224	260	-964
FPC用材料（有沢製作所）	14,526	13,814	-712			
FPC用材料（ThinFlex）	8,565	7,852	-713			
ICGC、プリプレグ	1,495	1,741	246			
プリント配線板（サトーセン）	1,958	1,698	-260			
産業用構造材料	9,128	10,602	1,474	1,315	1,476	161
ハニカムパネル	846	1,818	972			
水処理用FRP製圧力容器	5,559	6,044	485			
その他	2,723	2,740	17			
電気絶縁材料	2,582	2,533	-49	185	315	130
ディスプレイ材料	4,163	3,535	-628	1,024	940	-84
関連商品・その他	305	339	34	148	199	51
合計	42,722	42,114	-608	3,896	3,190	-706
全社費用				-1,668	-1,707	
営業利益				2,228	1,483	-745

- ・ 連結売上高は、産業用構造材料が増加したが、電子材料・ディスプレイ材料が減少し、6億8百万円（前期比1.4%）の減収。
- ・ 営業利益は、電子材料において、売上高の減少および需要減少に伴い在庫圧縮を進めたため、生産高が減少し、同33.4%の減益。
- ・ 電子材料は、パソコンやスマートフォンに使用される半導体の需要停滞が継続し、売上高は同5.4%の減収。
- ・ 産業用構造材料は、水処理需要が好調なことに加え航空機産業が回復基調にあり、同16.1%の増収。
- ・ ディ스플레이材料は、同15.1%の減収。

2024年3月期 通期の2月8日予想との増減分析



	売上高（百万円）			セグメント利益（百万円）		
	'23/3期 2/8予想	'24/3期 実績	増減	'23/3期 2/8予想	'24/3期 実績	増減
電子材料	25,300	25,105	-195	250	260	10
FPC用材料（有沢製作所）	13,800	13,814	14			
FPC用材料（ThinFlex）	8,000	7,852	-148			
ICGC、プリプレグ	1,800	1,741	-59			
プリント配線板（サトーセン）	1,700	1,698	-2			
産業用構造材料	10,800	10,602	-198	1,500	1,476	-24
ハニカムパネル	1,850	1,818	-32			
水処理用FRP製圧力容器	6,100	6,044	-56			
その他	2,850	2,740	-110			
電気絶縁材料	2,600	2,533	-67	250	315	65
ディスプレイ材料	3,600	3,535	-65	750	940	190
関連商品・その他	300	339	39	200	199	-1
合計	42,600	42,114	-486	2,950	3,190	240
			全社費用	-1,700	-1,707	
			営業利益	1,250	1,483	233

- ・売上高は、予想をわずかに下回り、4億86百万円（予想比1.1%）減少。
- ・営業利益は、ディスプレイ材料の製品ミックス良化により、2億33百万円（同18.7%）増加。
- ・電子材料は、中国市場の回復が遅れ、FPC材料(ThinFlex)が予想に届かず。
- ・産業用構造材料は、各製品の売上高、セグメント利益ともにほぼ予想通り。
- ・ディスプレイ材料は、製品ミックスの良化によりセグメント利益が予想を上回った。

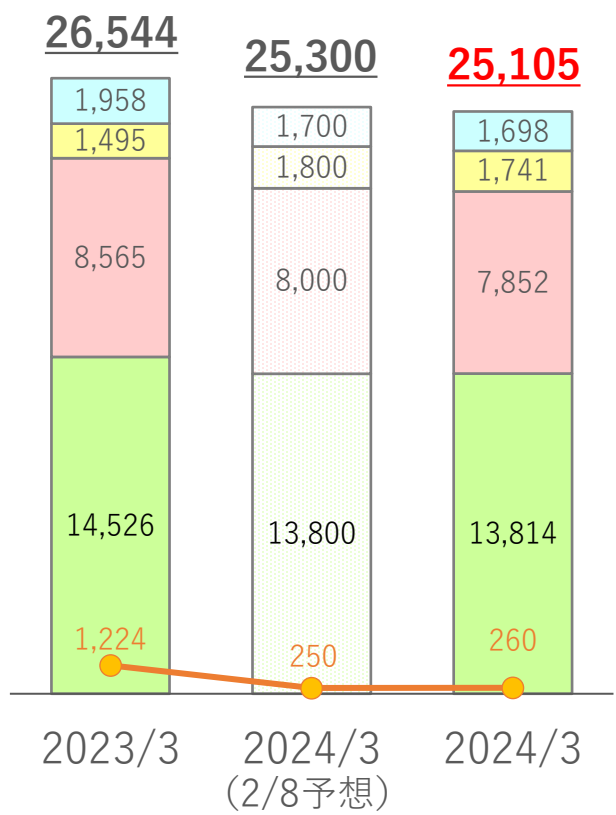


電子材料

売上高（百万円）

- プリント配線板（サトーセン）
- ICGC・プリプレグ
- FPC用材料（ThinFlex）
- FPC用材料（有沢製作所）

セグメント利益



市場

・2022年下期より顕在化した、パソコンやスマートフォンに使用される半導体の需要停滞が継続。足元では底打感があるが、本格的な回復には至っていない。

業績・・前期比

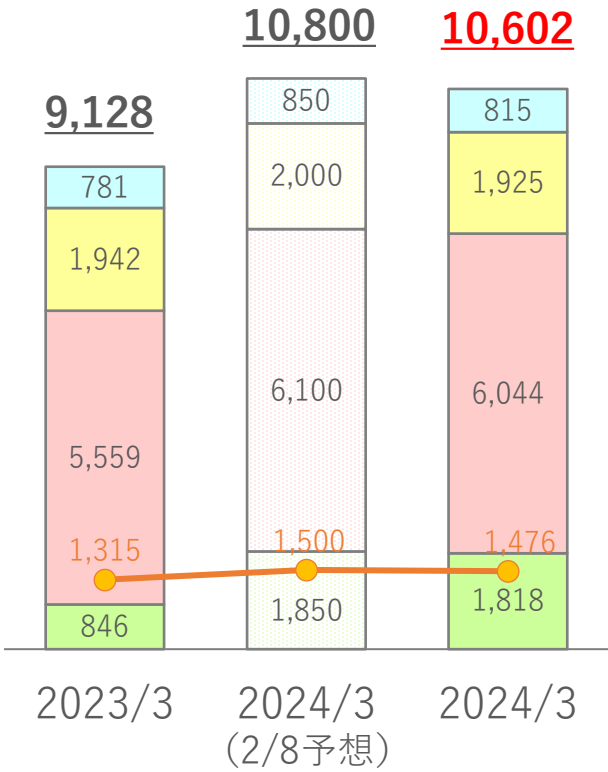
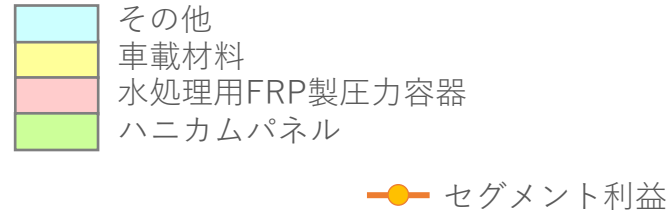
- ・FPC用材料、プリント配線板が減少し、14億39百万円（前期比 5.4%）の減収。
- ・FPC用材料(有沢製作所)は、半導体用途の減少などにより、同4.9%減収。
- ・FPC用材料(ThinFlex)は、中華系スマートフォンの需要減少により、同8.3%減収。
- ・ICGC・プリプレグは、同16.5%増収。
- ・プリント配線板は、同13.3%減収。
- ・売上高の減少および需要減少に伴い在庫圧縮を進めたため生産高が減少し、セグメント利益は同9億64百万円の減益。

業績・・2/8予想比

- ・2022年下期より需要停滞が継続するも、売上高は1億95百万円（予想比0.8%）の減少とほぼ予想通りに推移。
- ・セグメント利益は同10百万円増加。



産業用構造材料
売上高（百万円）



市場

・世界的な水需要の増加により飲料水・工場用水などの水処理用材料が好調なほか、コロナ後の経済正常化に伴い航空機産業が回復し始め、航空機用材料の生産も増加基調にある。
また、環境負荷低減に向けた新エネルギーの開発も活発化しており、当社においても開発案件が増えている。

業績 ・前期比

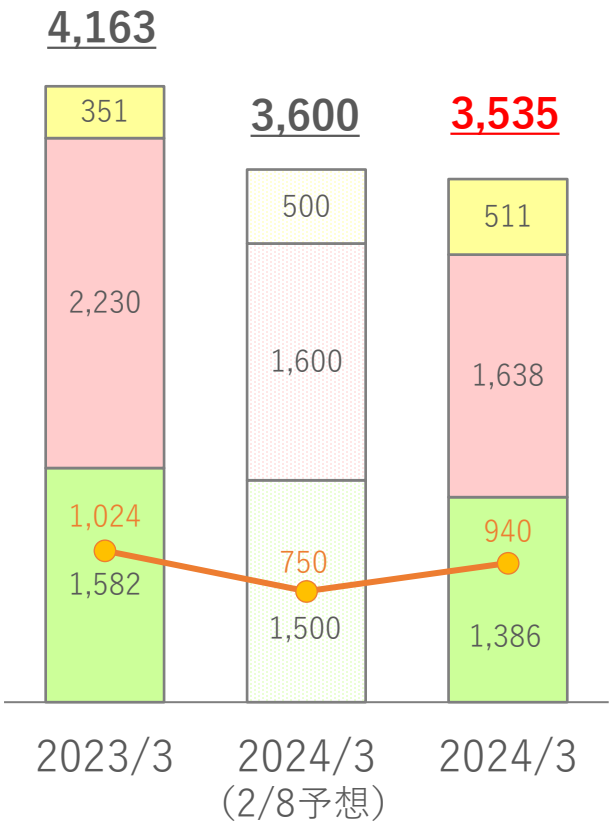
- ・航空機内装用ハニカムパネルは前期比115.0%増収。
- ・水処理用FRP製圧力容器は前期に引き続き好調を維持。能力増強、為替の影響などにより同8.7%増収。
- ・車載材料は、生産調整が収束し、前期並み（0.9%減）。
- ・ハニカムパネルの増収により、セグメント利益は同1億61百万円の増益。

業績 ・2/8予想比

- ・売上高、セグメント利益ともにほぼ予想どおりに推移。



ディスプレイ材料
売上高（百万円）



業績・・前期比

- ・ 3D関連材料は、前期比12.4%減収。
- ・ 偏光利用部材は、同26.5%減収。
- ・ 減収により、セグメント利益は同84百万円の減益。

業績・・2/8予想比

- ・ 売上高は、ほぼ予想通りに推移。セグメント利益増加は製品ミックスの良化による影響。

目次

- ☐ 2024年3月期 連結決算
- ☒ 2025年3月期 業績予想
- ☐ 参考資料



	'24/3期 上期 実績	'24/3期 通期 実績	'25/3期 上期 5/9予想	前年 同期比	'25/3期 通期 5/9予想	前期比
売上高	19,895	42,114	23,500	18.1%	48,900	16.1%
営業利益	169	1,483	1,500	783.3%	3,200	115.7%
営業利益率	0.9%	3.5%	6.4%		6.5%	
経常利益	218	1,488	1,600	632.6%	3,300	121.7%
純利益	563	1,639	1,100	95.2%	2,400	46.4%
一株利益（円）	17.02	49.51	33.10*	94.9%	72.30*	46.2%
配当金（円）	20.00	合計 60.00	42.00	--	合計 84.00	--
為替レート （円/\$）	平均 135.00 期末 149.58	140.67 151.41	148.00 143.00	--	145.00 143.00	--

業績予想（通期）

- ・連結売上高は、主に電子材料、産業用構造材料が増加し、67億86百万円（前期比16.1%）の増収。
- ・営業利益は、売上高の増加により17億17百万円（同115.7%）の増益。
- ・経常利益は、18億12百万円（同121.7%）の増益。
- ・当期純利益は、前期に比べ有価証券売却益が減少し、経常利益の増加率を下回る46.4%の増益に留まる。

* 3月31日現在の発行済株式数で試算

■ 2025年3月期 上期予想の前期比増減分析



	売上高（百万円）			セグメント利益（百万円）		
	'24/3期 実績	'25/3期 5/9予想	増減	'24/3期 実績	'25/3期 5/9予想	増減
電子材料	11,726	14,300	2,574	-210	900	1,110
FPC用材料（有沢製作所）	6,725	7,700	975			
FPC用材料（ThinFlex）	3,408	4,500	1,092			
ICGC、プリプレグ	740	1,200	460			
プリント配線板（サトーセン）	853	900	47			
産業用構造材料	5,101	5,900	799	572	950	378
ハニカムパネル	913	850	-63			
水処理用FRP製圧力容器	3,128	3,600	472			
その他	1,060	1,450	390			
電気絶縁材料	1,233	1,200	-33	114	100	-14
ディスプレイ材料	1,667	1,950	283	420	350	-70
関連商品・その他	158	150	-8	99	100	1
合計	19,895	23,500	3,605	995	2,400	
			全社費用	-826	-900	
			営業利益	169	1,500	1,331

市場予想

- ・ 2022年下期から続いたパソコンやスマートフォンに使用される半導体の需要停滞が底打ちし、25/3期より回復に向かう。
- ・ 水需要の増加により飲料水・工場用水などの水処理用材料が好調を継続する。

業績予想

- ・ 主に電子材料、産業用構造材料の売上増により、売上高は36億5百万円（前期比18.1%）の増収、営業利益は13億31百万（同783.3%）の増益を見込む。

2025年3月期 通期予想の前期比増減分析



	売上高（百万円）			セグメント利益（百万円）		
	'24/3期 実績	'25/3期 5/9予想	増減	'24/3期 実績	'25/3期 5/9予想	増減
電子材料	25,105	30,000	4,895	260	2,000	1,740
FPC用材料（有沢製作所）	13,814	15,200	1,386			
FPC用材料（ThinFlex）	7,852	10,400	2,548			
ICGC、プリプレグ	1,741	2,500	759			
プリント配線板（サトーセン）	1,698	1,900	202			
産業用構造材料	10,602	12,300	1,698	1,476	2,000	524
ハニカムパネル	1,818	1,850	32			
水処理用FRP製圧力容器	6,044	7,100	1,056			
その他	2,740	3,350	610			
電気絶縁材料	2,533	2,500	-33	315	200	-115
ディスプレイ材料	3,535	3,800	265	940	600	-340
関連商品・その他	339	300	-39	199	200	1
合計	42,114	48,900	6,786	3,190	5,000	
			全社費用	-1,707	-1,800	
			営業利益	1,483	3,200	1,717

市場予想

- ・ 2022年下期から続いたパソコンやスマートフォンに使用される半導体の需要停滞が底打ちし、25/3期より回復に向かう。
- ・ 水需要の増加により飲料水・工場用水などの水処理用材料が好調を継続する。

業績予想

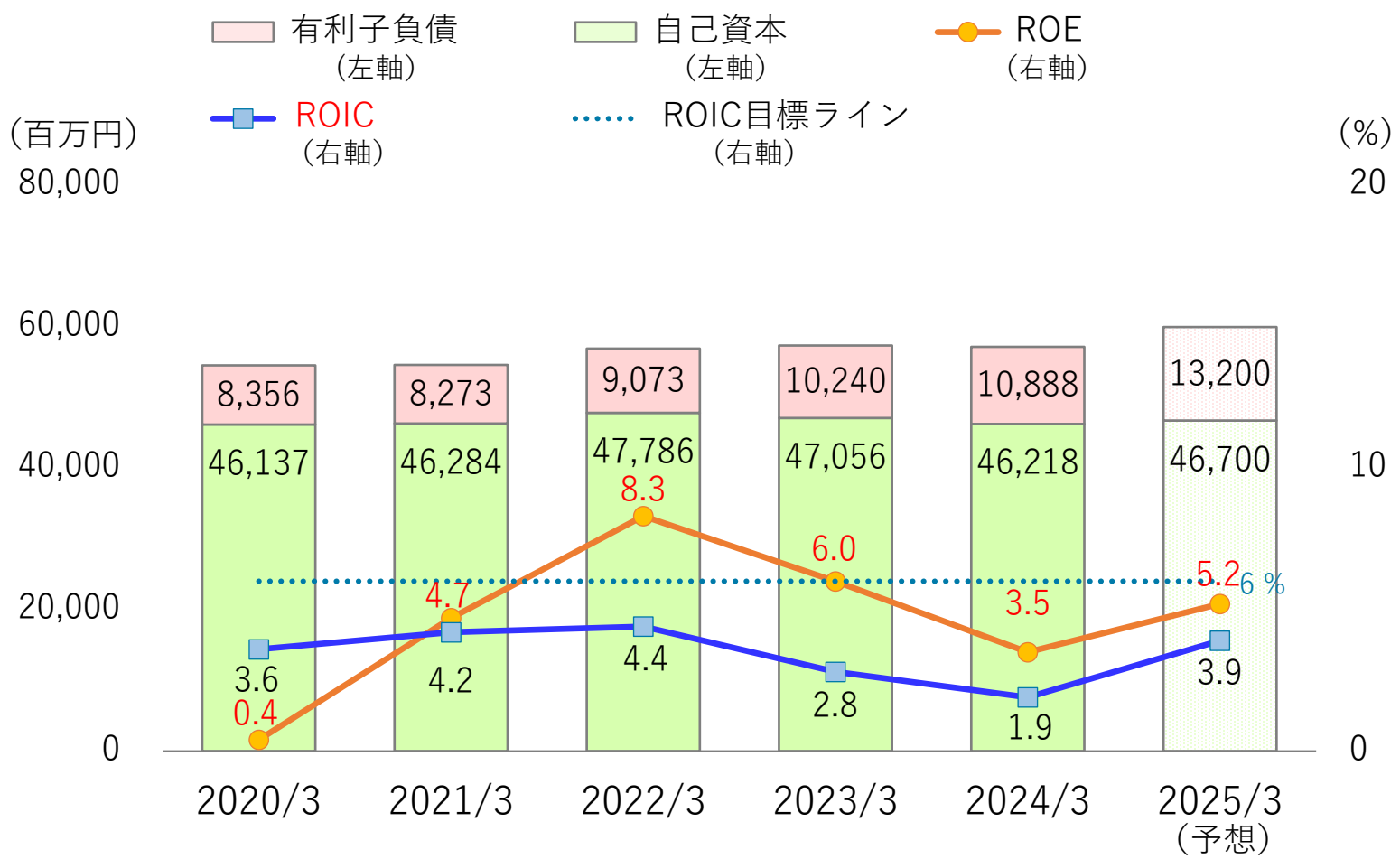
- ・ 主に電子材料、産業用構造材料の売上増により、売上高は67億86百万円（前期比16.1%）の増収、営業利益は17億17百万円（同115.7%）の増益を見込む。

ROE・ROICの推移



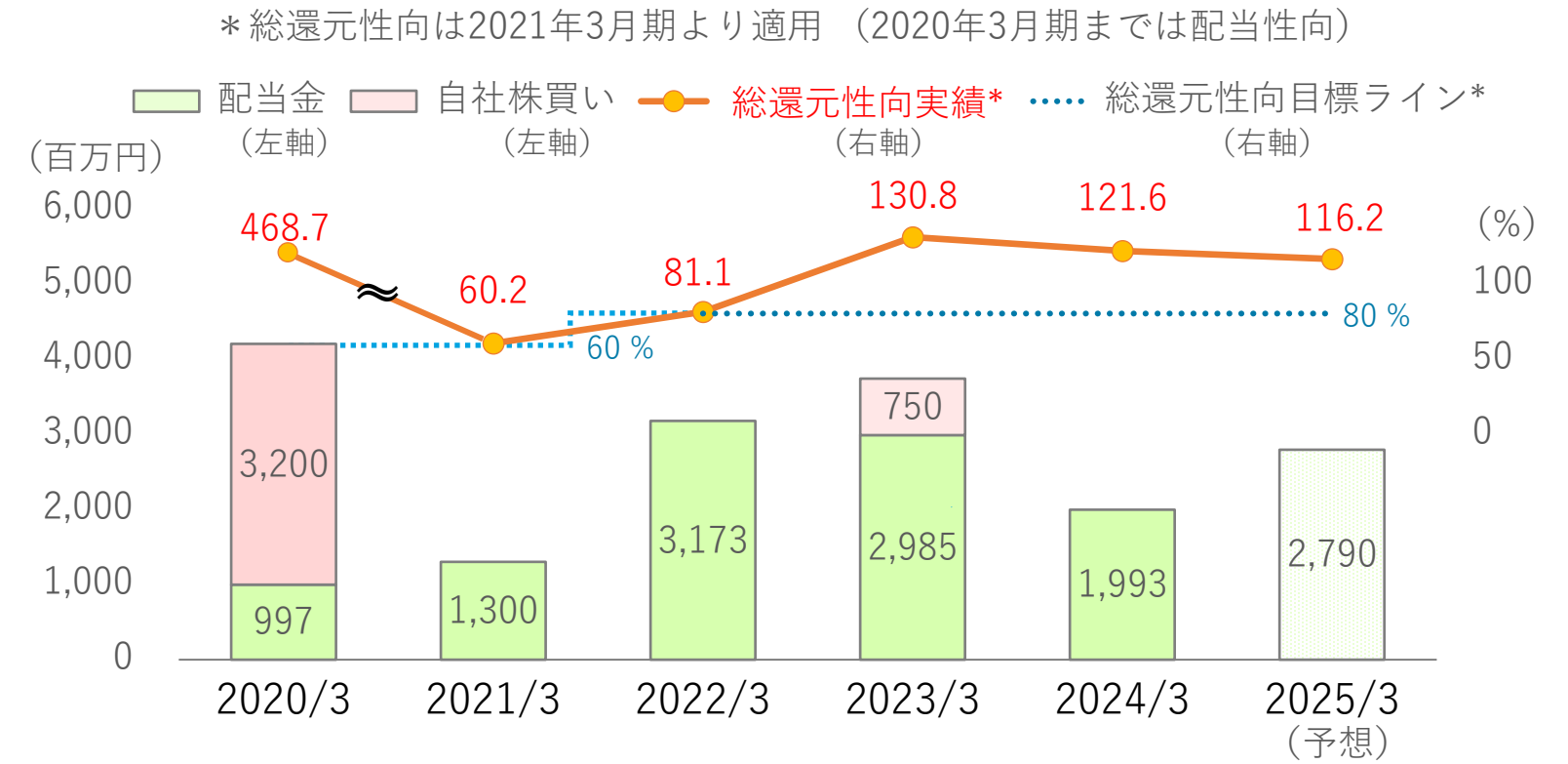
ROE= 当期純利益 / 自己資本

ROIC= 税引き後営業利益 / (自己資本+有利子負債)



- ・ '24/3期のROICは、営業利益の減少により1.9%に低下。
('23/3期の営業利益は 2,228百万円
'24/3期は 1,483百万円と33.4%減少)
- ・ '25/3期のROICは、営業利益の増加により3.9%を見込む。

■ 配当金・総還元性向の推移



- ・ 24/3期の期末配当金は、従来予想の1株当たり25円から15円を増配し、1株当たり40円に修正（2024年4月10日発表）。
- ・ この結果、中間期配当20円と合わせて年間配当金は60円となり、24/3期の総還元性向は121.2%。

株主還元方針の変更（2024年4月10日発表）

- ・ 24/3期までは「総還元性向 80%以上」と掲げ、積極的な株主還元を実施。
- ・ 上記方針では、配当金は景況変化の影響を敏感に受け株主還元としては不安定。
- ・ 25/3期より安定性を志向した指標である「株主資本配当率（DOE）6%」と「総還元性向 80%以上」のいずれか高い方を株主還元とする。（適用期間：自己資本比率 50%程度を達成できる時期まで）
- ・ 25/3期の配当金はDOE6%を予想。

	2020/3	2021/3	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3
株価（円/株）**	802	1,000	957	1,254	1,137	—
配当金（円/株）	30	39	95	90	60	合計 84（予想）
配当利回り（%）	3.7	3.9	9.9	7.2	5.3	—

** 各年度末の終値

目次

- ☐ 2024年3月期 連結決算
- ☐ 2024年3月期 業績予想
- ☒ 参考資料

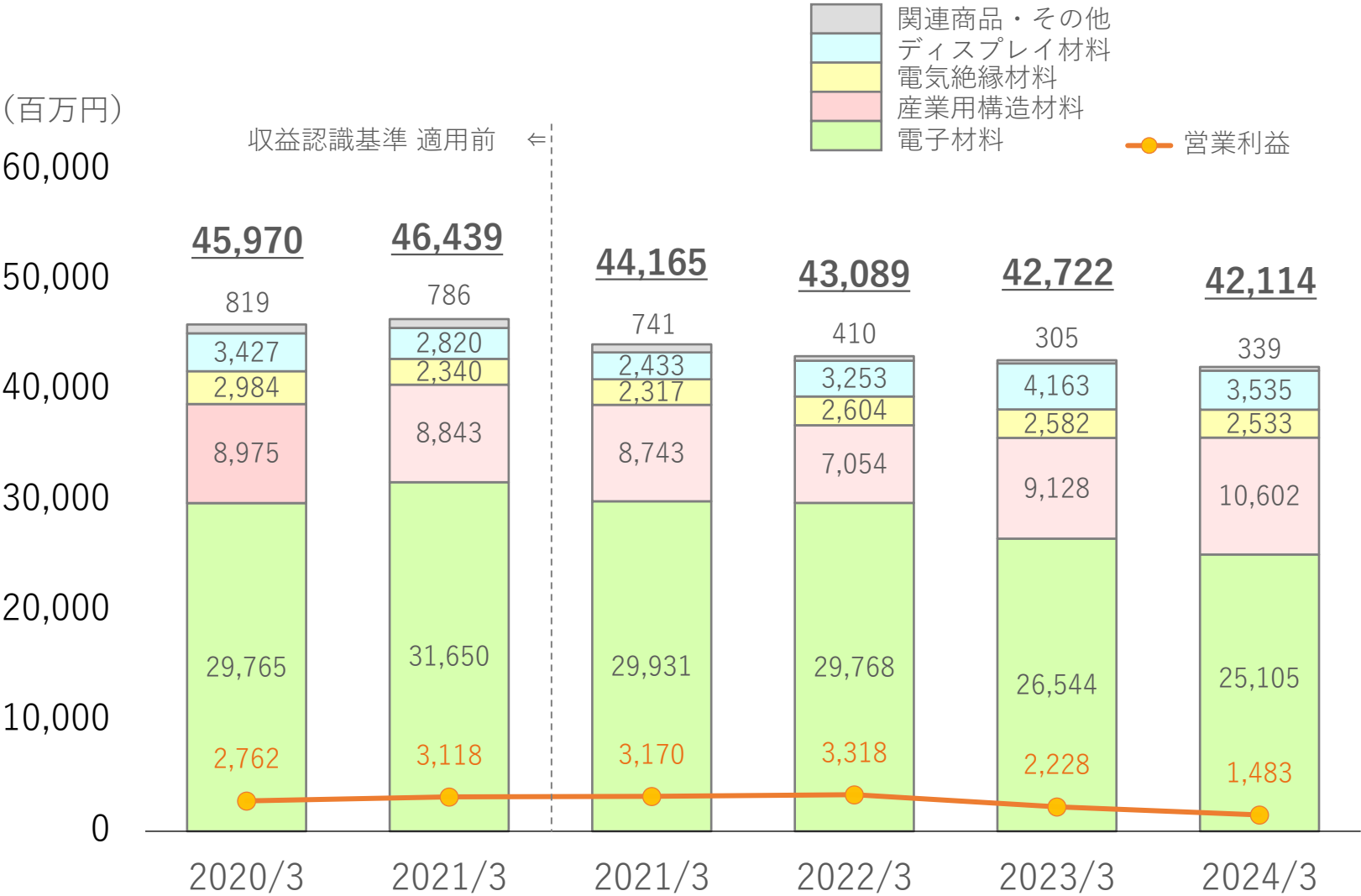
■ 会社別 通期業績（前期比・予想比）



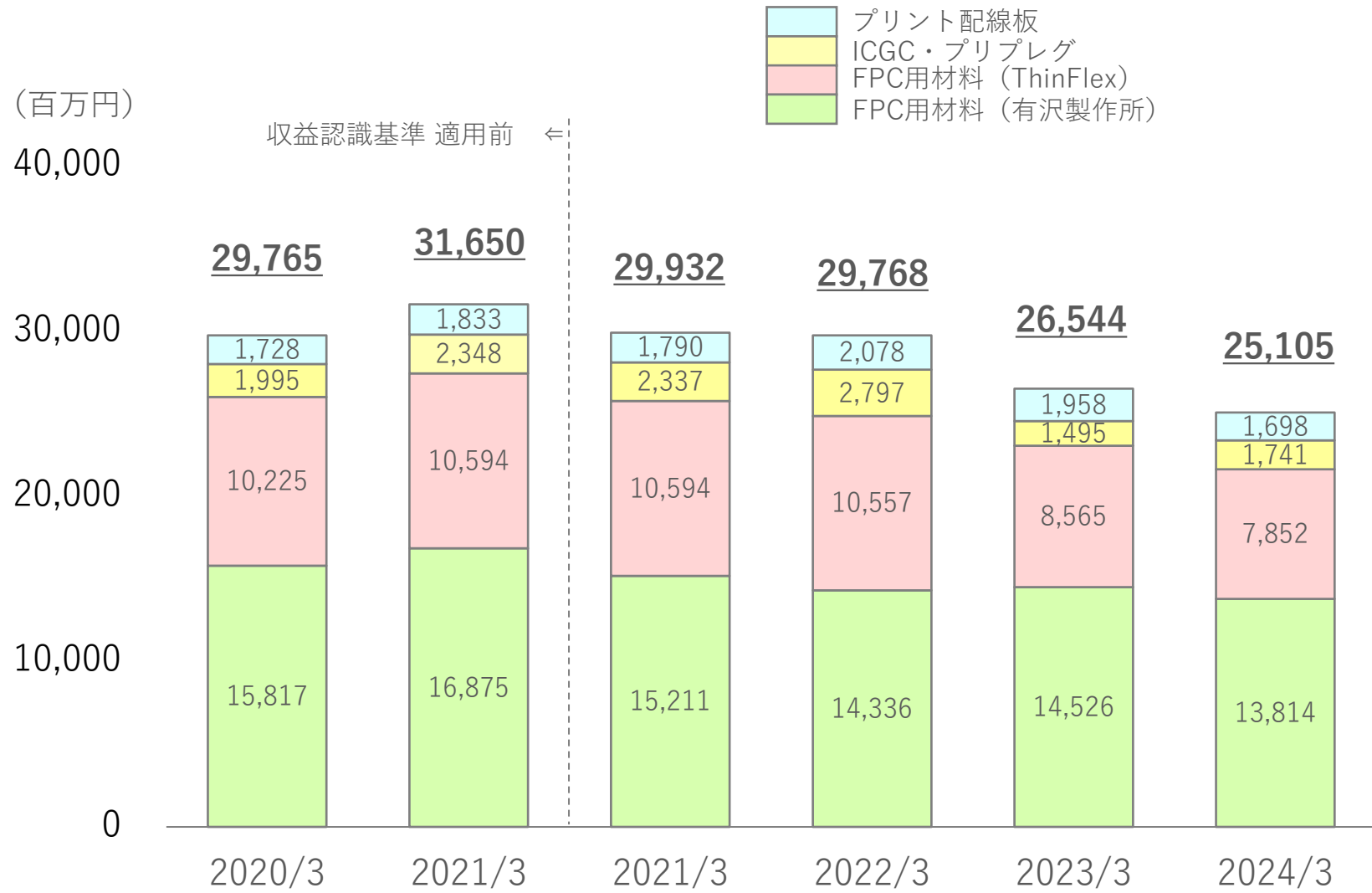
(百万円)

	売上高					営業利益				
	'23/3期 実績	'24/3期 予想 (2/8)	'24/3期 実績	増減 対前期 対予想		'23/3期 実績	'24/3期 予想 (2/8)	'24/3期 実績	増減 対前期 対予想	
単体										
有沢製作所	25,752	27,000	26,560	808	-440	1,098	750	905	-193	155
連結会社										
シンフレックス	9,661	8,600	8,559	-1,102	-41	-30	-600	-601	-571	-1
サトーセン	1,958	1,700	1,699	-259	-1	24	20	10	-14	-10
アリサワファイバーグラス	1,657	1,850	1,897	240	47	-135	-60	-67	68	-7
プロテック	5,369	6,050	6,037	668	13	907	920	906	-1	-14
有沢総業	1,563	1,800	1,786	223	-14	36	120	102	66	-18
有沢樹脂工業	263	300	291	28	-9	15	40	34	19	-6
カラーリンク・ジャパン	2,257	1,600	1,640	-617	40	282	60	131	-151	71
(連結消去額)	-5,758	-6,300	-6,355			31	0	63		
合 計	42,722	42,600	42,114	-608	-486	2,228	1,250	1,483	-745	233

■ 年度別／分野別の業績推移（売上高・営業利益）

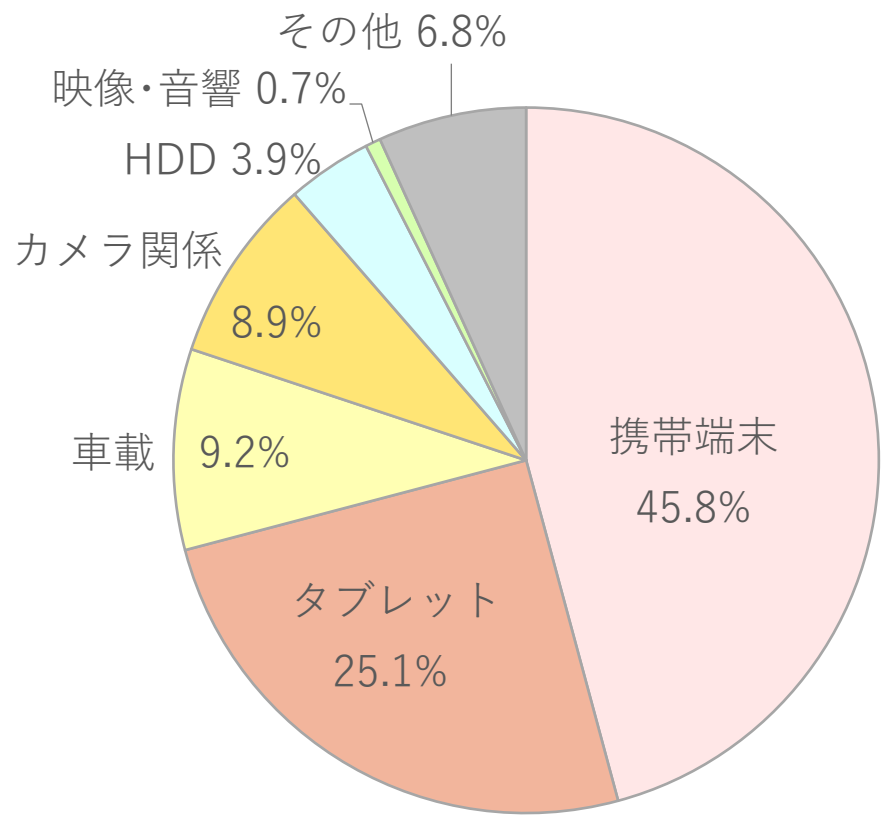


’22/3期から収益認識基準を適用。（参考として’21/3期も遡及適用）

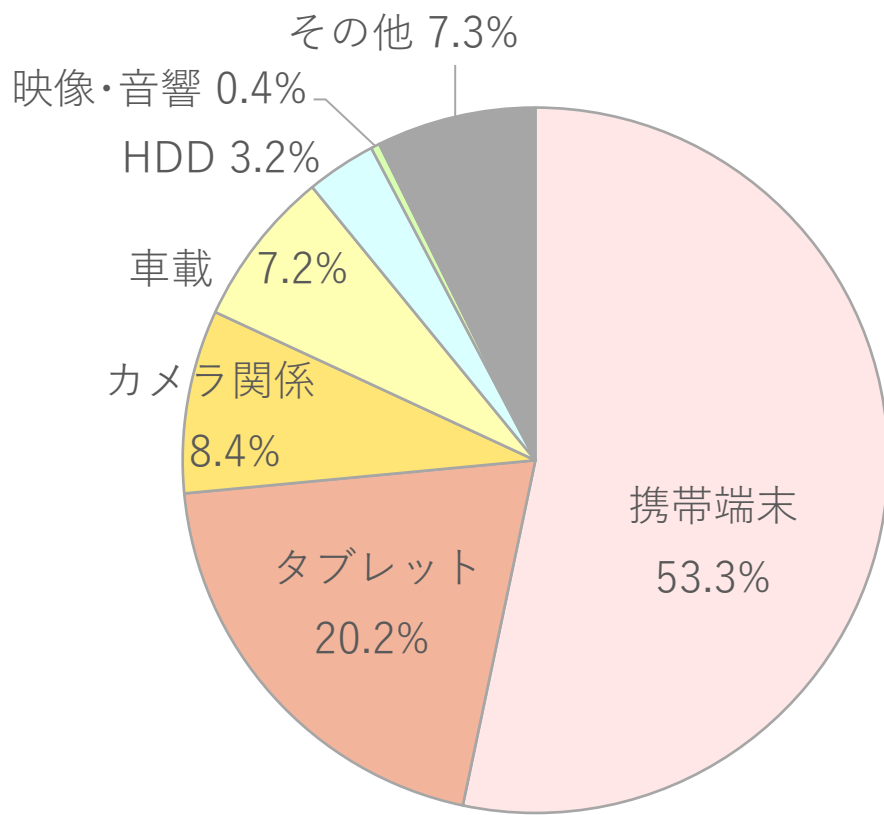


’22/3期から収益認識基準を適用。（参考として’21/3期も遡及適用）

2023年3月期

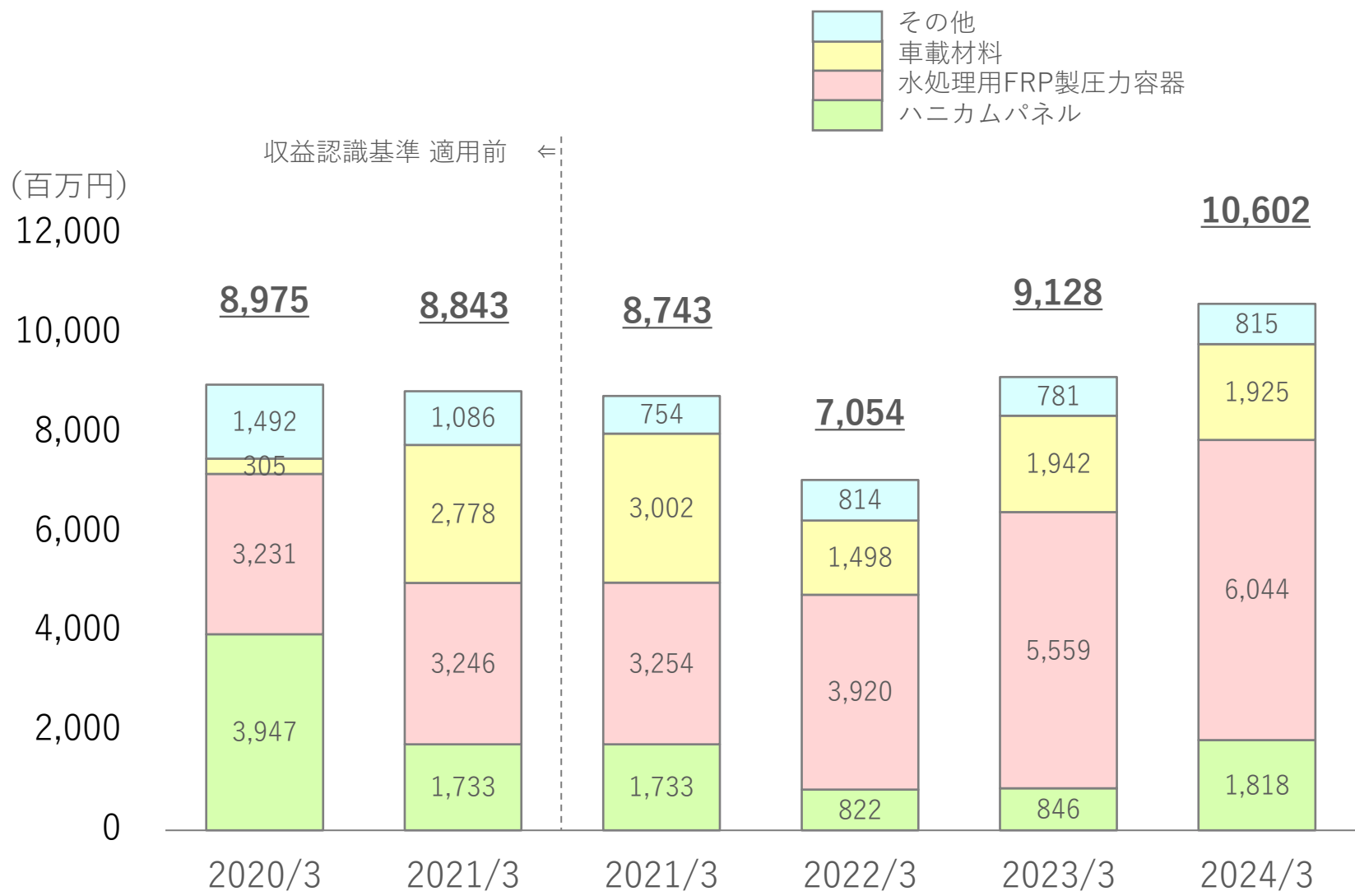


2024年3月期



数量ベース
出所：当社推定

産業用構造材料の売上高推移



'22/3月期から収益認識基準を適用。（参考として'21/3期も遡及適用）

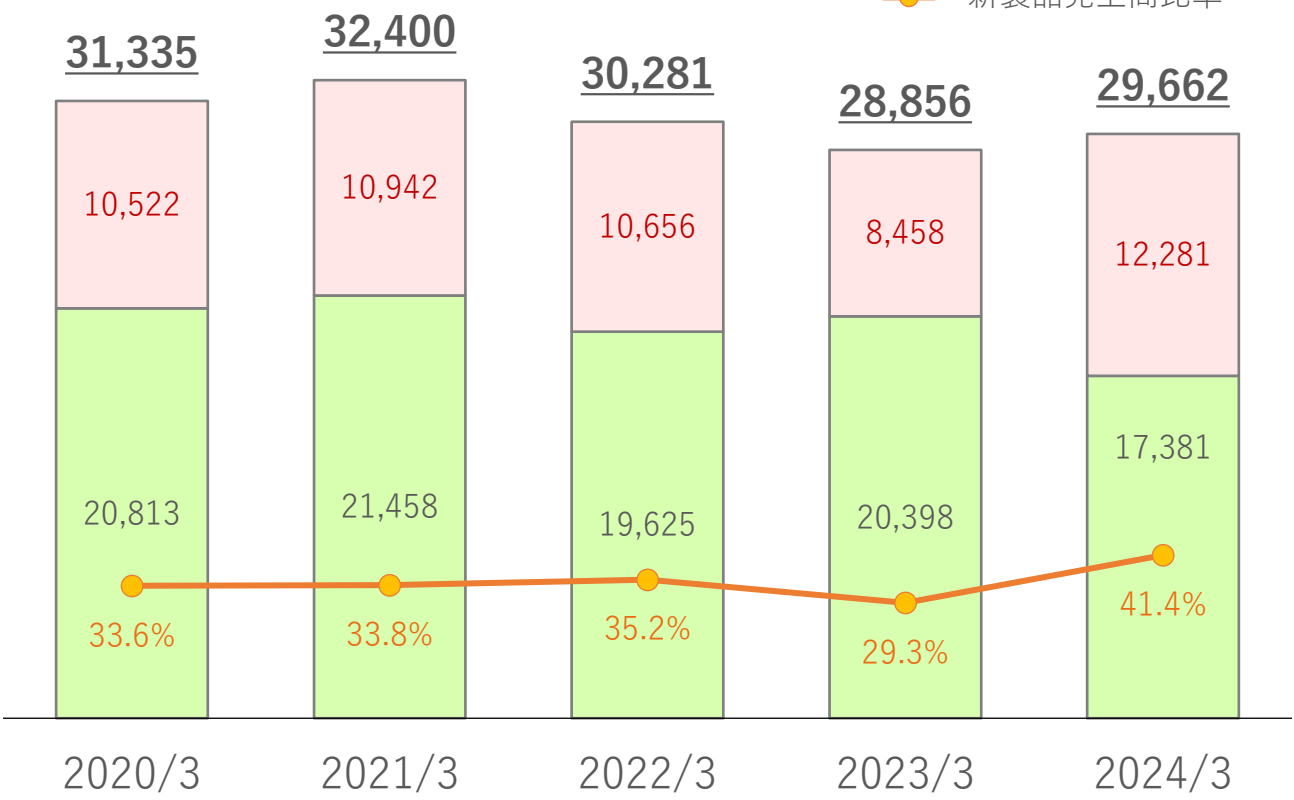
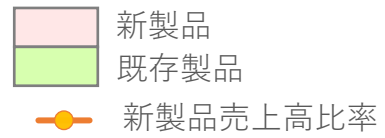
■ 新製品売上高の推移（単体：月次決算ベース）



売上高（百万円）

差異化製品・応用製品＋環境配慮製品の開発により収益力強化

新製品売上高比率（％）
＝ 新製品売上高 ／ 売上高



新製品の分類と要件

- P (Pure)**（新規材料・配合・効果、新規加工方法）
（特許出願またはそれに相当する内容）
- T (Technical)**（大幅な工程改善・生産性向上、
材料・配合の切り替え・改良）
- S (Sales)**（用途展開、モデルチェンジ）
- E (Eco)**（CO₂ 削減効果のある材料・加工方法の
採用や用途、顧客工程でのCO₂ 削減）
…'23/3期より採用
- E-C (E-CO₂)**（既存品の製造条件の見直しよりエネ
ルギー使用量を削減）
…'24/3期下期より採用

新製品のカウント期間は、販売後3年間。

目標値：新製品売上高比率**50%以上**

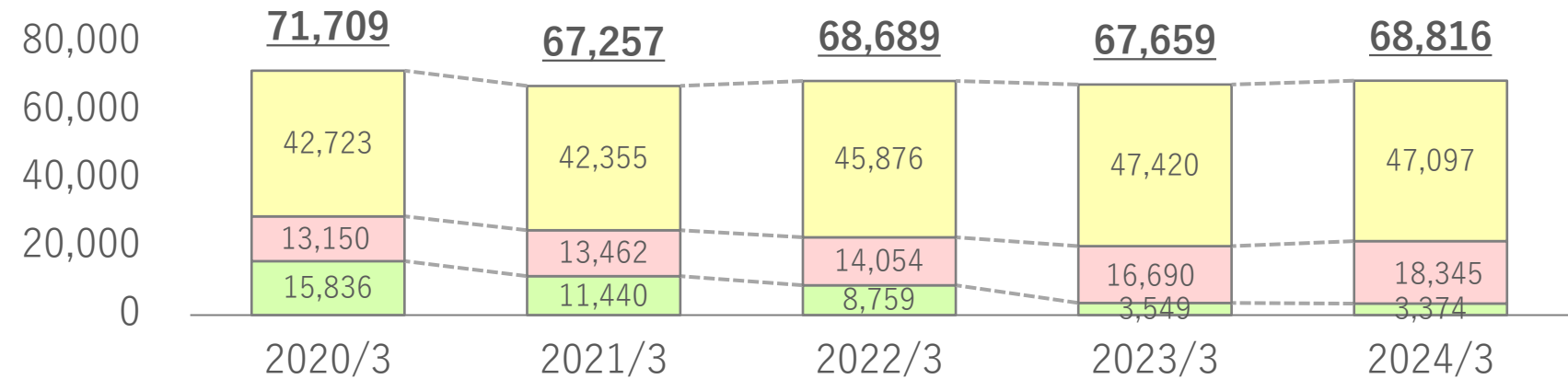
■ 連結貸借対照表（要旨）の推移



資産の部

(百万円)
100,000

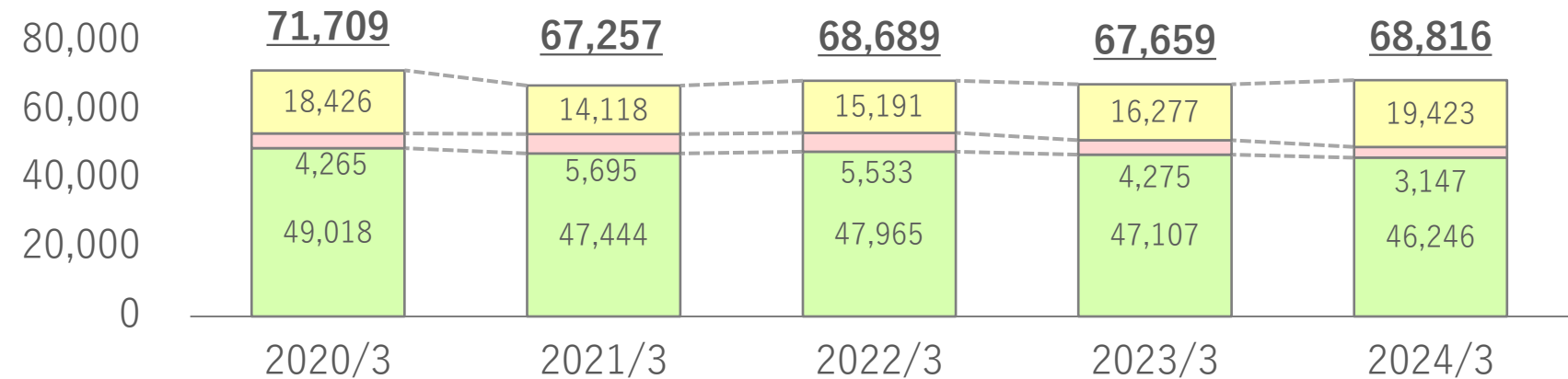
■ 投資・他資産 ■ 固定資産 ■ 流動資産



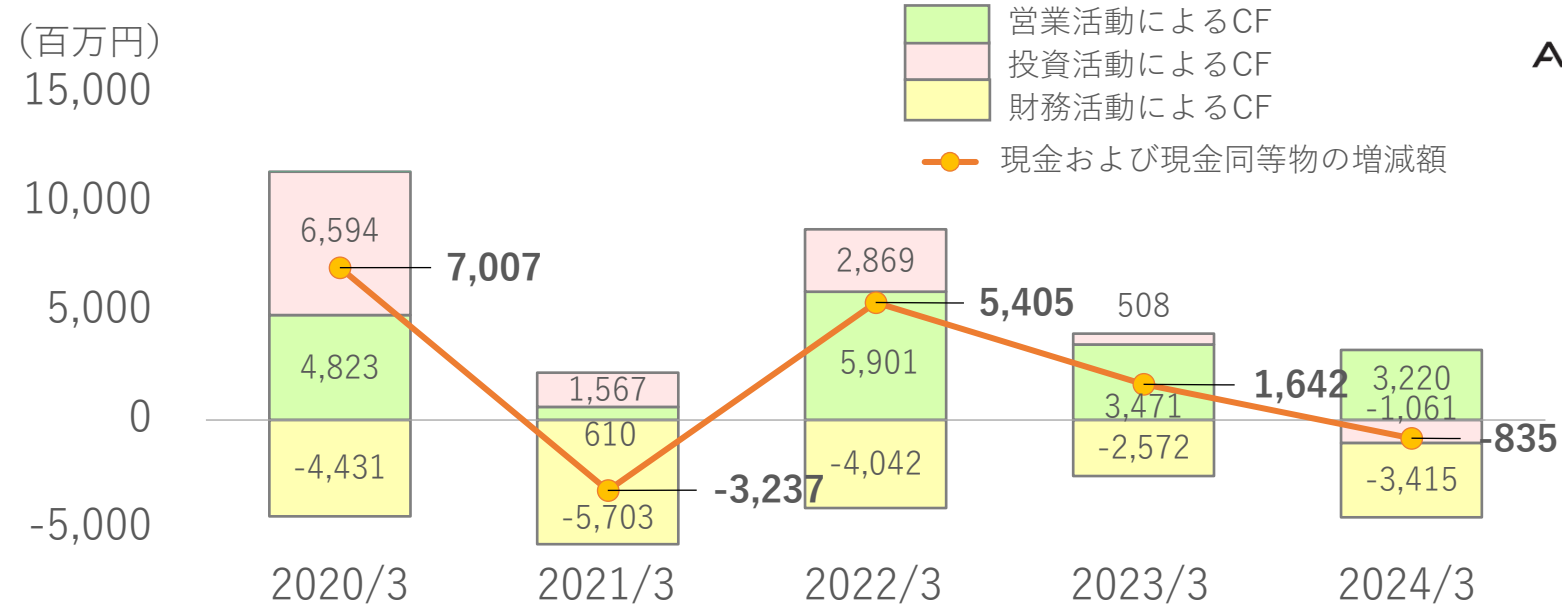
負債・純資産の部

(百万円)
100,000

■ 純資産 ■ 固定負債 ■ 流動負債

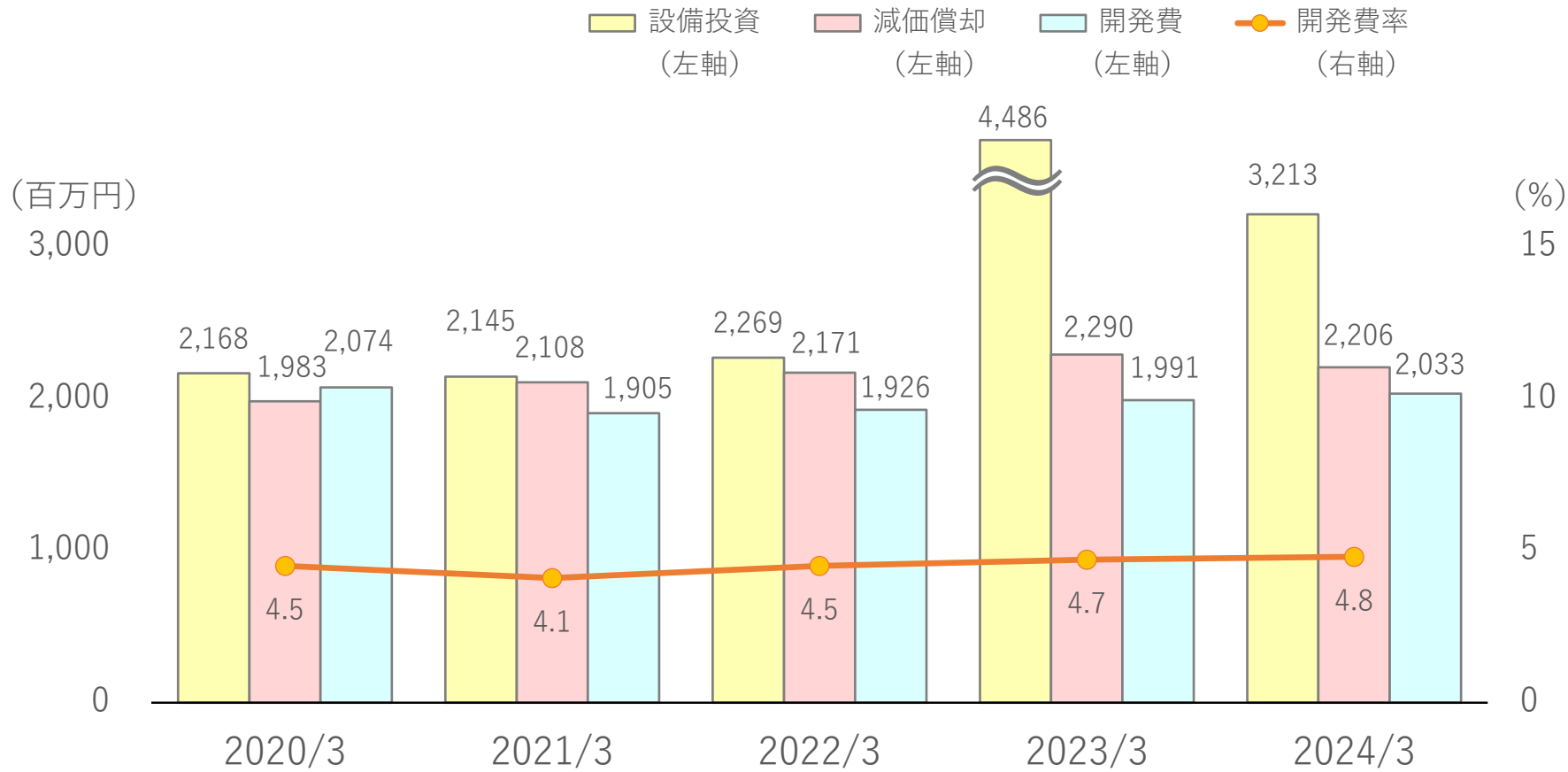


■ 連結キャッシュフローの推移



営業活動によるCF	4,823	610	5,901	3,471	3,220
法人税等の支払	-634	-4,970	889	-1,588	-1,016
投資活動によるCF	6,594	1,567	2,869	508	-1,061
有形・無形固定資産の取得による支出	-2,863	-1,983	-2,007	-4,375	-3,779
投資有価証券の売却による収入	9,604	4,938	3,235	6,411	1,087
財務活動によるCF	-4,431	-5,703	-4,042	-2,572	-3,415
配当金の支払	-1,085	-995	-1,463	-3,000	-3,641
自己株式の取得による支出	-3,200		-82	-748	
ThinFlexの完全子会社化による支出		-4,324	-2,439		

■ 設備投資・減価償却費・開発費の推移



・ 2023/3以降、中期経営計画に掲げる設備投資を実行中。

2023/3～2025/3 設備投資（百万円）	計画	見込み
新製品開発	5,900	6,900
生産能力増強	5,600	4,250
建物・設備の維持	2,700	2,850
生産プロセス改善	900	800

詳細は中期経営計画（2024.5.9発行）を参照

本資料は、株式会社有沢製作所（以下当社）による口頭説明によって補完され、かつ、かかる説明との関連性において検討されるべきものです。当社の事前の書面による同意なしに、本資料およびその内容をいかなる目的にも使用することはできなく、また本資料の内容を公表する権利もしくは第三者に開示する権利を付与するものではありません。

本資料に示されている情報は、当社経営陣の予測に基づくもの、あるいは本資料作成時点における実勢および当社の見解に依拠したものであり、予告無しに変更されることがあります。当社は、公の情報源から入手した情報、その他当社の検討した情報が全て正確かつ完全であることを前提に本資料を作成しており、これらの情報について独自の検証は行っておりません。